

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 石岡市 】

学校名【 石岡市立東成井小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	4～6年児童 (4年20名、5年35名、6年17名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習の時間、学級活動 ) ② 行事名 ( オリンピアンによる講演会 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の方に、パラリンピックを目指すまでの努力や困難だったこと、そして人生の上で大切だと思ったことをご講演いただき、パラリンピックへの関心を高める。</li> <li>・現役選手の講演を通して、障害をもつ方々との共生社会について考え、お互いを尊重して生きていこうとする意識を高める。</li> </ul>
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に山口凌河選手やパラリンピック、ゴールボールに関する知識を得るためのプレゼンテーションを各学年で行い、パラリンピックやその競技、更に障害に関する興味・関心を高めた。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>2. そもそも、パラリンピックとは？</p> <p>パラリンピックは障害者を対象とした、もうひとつのオリンピックです。4年に一度、オリンピック競技大会の終了直後に同じ場所で開催されています。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>4. ゴールボールとは、どんな競技？</p> <p>視覚障がいのある選手がプレーするゴールボールは、パラリンピック特有の競技です。鈴の入ったバスケットボール大のボールを互いに投げ合い、得点を競うチームスポーツです。コート上の選手は3人。選手は障がいの程度に関わらず、「アイシェード」と呼ばれる目隠しを装着し、全盲状態でプレーします。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">【事前学習のためのスライド例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月、山口凌河選手による講演会に4・5・6年生児童が参加し、講演を聞いたり、山口選手に質問をしたり、競技の器具やメダルに触ったりなどの活動を行った。</li> </ul>



【パワーポイントを使っでの講演】



【競技用具や各種大会のメダルなどの実物に触れている様子】

- 12月の講演会后、山口凌河選手にお礼のビデオメッセージを作成し、送付した。



【ビデオレター作成の様子】

6 主な成果

- 事前に講師の方やパラリンピックなどについて知る活動を行ったことで、児童の興味・関心が高まり、講演会で聞いてみたいことを具体的に考えたり、パラリンピックの他の競技について調べようとしたりする姿が見られた。
- 「自分の学校にパラリンピック選手が来る」という事実を嬉しがる姿が見られた。また、競技用具やメダル、本人の競技に対する熱意や人生観を直接肌で感じ、耳で聞くことを通して、ただパラリンピック自体に興味をもつだけでなく、障害がありながらも、人生をよりよく生きようとしている講師の生き方に感銘を受ける児童が多数いた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- 目的に沿った、茨城県出身の講師の方をお呼びし、児童の講演会に対する動機付けを行った。
- 講演の前にパラリンピアン講師の方に関することや、パラリンピックに関するプレゼンテーションを行い、興味・関心を高める工夫をした。
- 講師の方が視覚障害ということで、児童によるお礼の方法をビデオレター（音声）という手段にした。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>•当初、パラリンピアンと児童による50m走の競走のイベントを予定していたが、対応できるパラリンピアンを見つけることができず、講演会という形に変更せざるを得なかった。</li> <li>•パラリンピアンによる講演会以降、児童が共生社会について考える授業展開を入れ、より考えを深める機会を設定することが課題である。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>•講演会后、1～3年生から「自分たちも講演会を見たかったです」という声が多く聞こえた。課題となった共生社会との関連付けを意識した計画を練り、実施したい。</li> </ul>